

各診療科で取り組んでいる、「その他の勤務負担軽減策」について医師責任者票の自由記述欄の内容をとりまとめると、以下のとおりである。

図表 139 各診療科で取り組んでいる、その他の勤務負担軽減策（自由記述形式）

- ・当直後の配慮（翌日勤務時間短縮、翌日休暇、後日の代休取得等）
 - ・外来患者受入れの制限（予約制・紹介制・長期処方等）
 - ・休暇への配慮（長期休暇・有給休暇の取得奨励、土日祝日の交替での休暇取得等）
 - ・チーム担当医制の導入
 - ・他院からの当直医師の応援・非常勤医師による当直
 - ・地域の病院・診療所との連携（診療応援・手術応援・輪番制等）
 - ・IT環境の整備等
 - ・オンコール体制の導入・充実
 - ・シフト勤務制の導入
- ／等

取り組んでいる勤務負担軽減策の効果についてみると、効果があった（「効果があった」＋「どちらかといえば効果があった」）との回答が最も多かったのは「医師事務作業補助者の配置」（72.8％）で、次いで「常勤医師の増員」（70.7％）、「非常勤医師の増員」（67.8％）、「医師業務看護師等コメディカルへの移転」（66.4％）であった。

また、効果がなかった（「効果がなかった」＋「どちらかといえば効果がなかった」）との回答が最も多かったのは「外来診療時間の短縮」（28.7％）で、次いで「当直翌日の仮眠をとれる体制」（25.6％）、「当直翌日の残業なしの配慮」（18.5％）、「短時間勤務の導入」（17.6％）であった。